

令和6年度 江戸川区立清新第一小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	「体をきたえる子」 「最後までやりぬく子」		「思いやりのある子」※重点 「進んで学習する子」		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・保護者・地域から信頼され、共に歩む学校、「チーム清新一小」による落ち着いた学校 ・体をきたえる子、思いやりのある子、最後までやりぬく子、進んで学習する子 ・児童一人一人としっかり向き合う教師 認め合い、学び合える教師		
前年度までの本校の現状	成果	「人権の花」運動に取り組むなど、年間を通して、子供たちが落ち着いて学習することができた。ICT活用の研究を生かし、一人一台端末を授業の中で、効果的に活用することができた。アプリによる保護者への連絡方法も定着した。			課題	年間を通した運動遊びを十分に行うことができなかったので、継続的に運動遊びを計画する。学校ホームページの切り替えに伴い、閲覧しやすいように更新していく。学校図書館を移転し、整備をすすめる。一人一台タブレットの有効活用を引き続き行い、新たな教育課題に対応しながら指導を行っていく。		

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施	・東京ベーシック・ドリル診断でストで、平均正答率80%以上を目指す。	B	A	B	・放課後補習教室は実施している。ベーシック・ドリルは平均正答率が70%程度であり、次回に向け、練習問題を行う。	B	・民間事業者と連携した放課後補習教室は引き続き行ってほしい。	B	・放課後補習教室は、外部講師と連携しながら計画的に実施することができた。学年から、クラス単位に学習形態を変えた。	B	・放課後の補習が、学力の向上につながるとよい。来年度も引き続き行ってほしい。	・放課後補習教室の利用人数を増やしていく。
		・3年生～6年生の算数は、少人数習熟度別による学習	・全国学力調査の正答率で、全国平均を5%程度上回る。	A	A	A	・全国学力調査の結果は全国平均を10%以上、上回ることができ、目標を到達することができた。	A	・少人数による指導をぜひ、引き続き続けてほしい。	A	・全国学力調査の結果は全国平均の目標を大幅に到達することができた。	A	・少人数による習熟度別の指導を、さらに活用してほしい。	・次年度も目標を達成できるように、少人数習熟度別による授業を行う。
	○読書科の更なる充実	・公共図書館巡回職員による学校図書館の整備及び、読書科で探究的な学習の充実を図る。	保護者アンケートで探究的な学びについて肯定的な回答80%以上を目指す。	B	A	A	・学校図書館をすくすくスクール2階から本校舎に移動し、整備した。机、椅子等も設置し、使用を開始している。	A	・図書館が新しくなり、今まで廊下だった部分もきれいになった。PTA図書ボランティアの方の協力もあり、整備が進んだ。	A	・巡回図書館司書や図書ボランティアにより、学校図書館の整備や活用が行われた。バーコード化の準備を行っている。	A	・読み聞かせスペシャルを図書室で行った。児童がとても喜んでいた。	・次年度は本のバーコード化を行い、蔵書を活用しやすくする。
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	・年間を通して運動遊びに取り組み、外遊びの習慣化を図る。	・児童アンケート結果で児童が体力を高めようとしていると回答80%以上を目指す。	B	A	B	・全学年が休み時間に外遊びをできるように変更し、体育館も活用している。夏の時期に暑すぎで、外遊びができない時の運動量確保が課題である。	B	・運動遊びに取り組み、体力向上を目指してほしい。	A	・全学年が校庭で遊ぶことができるようになった。持久走やマラソン大会などは計画通り行うことができた。	A	・運動遊びなど児童が体を動かす機会を増やしてくれるとよい。	・全学年休み時間は外遊びを行う。運動遊びに取り組むことで、体力向上を図る。
	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・80%以上の児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加	B	B	B	・1学期のなわ跳び習慣は1年生は参加することができなかった。2、3学期に行う予定である。	B	・なわ跳びなど、体を動かす機会を増やしてほしい。	B	・2,3学期になわ跳び週間を行うことができた。だが、なわ跳びコンテストに参加することができなかった。	B	・なわとびで体を動かすことを続けてほしい。	・年間を通し、なわ飛びに取り組ませることで、体力向上を図る。
実現に向けた教育の推進 共生社会の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・「一小スタンダード」に基づき、全学級で統一した学習環境や生活環境をつくる。	・保護者アンケートで基本的生活習慣について肯定的な回答80%以上を目指す。	B	A	A	・「一小スタンダード」に基づき、落ち着いて学校生活を送り、学習することができた。	A	・学校公開での授業参観では、とても落ち着いて学習している様子を見ることができた。	A	・「一小スタンダード」をもとに、落ち着いて学校生活を送り、学習することができた。年間を通じて、学習習慣や生活習慣が整っていた。	A	・学校公開で授業を参観していると、落ち着いて学校生活を送る姿が見られた。	・次年度も「一小スタンダード」を基に、全学級で統一し、学習環境や生活環境を整える。
	○エンカレッジルームの活用促進	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、関係機関と連携し特別支援校内委員会の活性化を図る。	・毎月1回、校内委員会を実施する。	B	A	B	・エンカレッジルームの担当教員を決め、活用することができた。 ・校内委員会を5回開催した。	B	・引き続き、特別支援教育の推進を進めてほしい。	A	・毎月1回、校内委員会を実施し、関係機関と連携し特別支援校内委員会の活性化を図ることができた。	A	・特別に支援を必要とする児童についての支援体制は今後も充実させてほしい。。	・次年度も関係機関と連携し特別支援校内委員会の活性化を図る。
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・判定委員会年4回を計画、実施する。	A	A	A	・副籍交流の体験学習を行うことができた。引き続き、交流していく。	A	・副籍交流など、ぜひ機会を作ってほしい。	A	・判定委員会年4回を計画、実施することができた。	A	・副籍交流、判定委員会などと特別支援に関することを進めてもらいたい。	・次年度も副籍交流を計画的に行う。
不登校・いじめ対応の充実	○不登校対策の実施・充実	・いじめアンケートや学校に関するアンケートを学期ごとに実施する。	・年間3回のいじめアンケートや日常的な観察によりいじめの未然防止に努める。	B	A	A	・1学期のいじめアンケートを中心に児童の実態把握を行うことができた。	B	・トラブルがあった時にも、すぐ対応している。・いじめや不登校については、早期発見と早期対応に務めた。	A	・定期的にいじめアンケートを実施し、活用していじめの未然防止を努めてほしい。	A	・いじめやトラブル対応などは引き続き、早期解決に努めてほしい。	・学級減の教室を利用し、不登校対策の充実を図る。
	○hyper-QUの活用	・QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進	・年に1回校内でQU研修会を実施する。	B	A	B	・hyper-QUを実施した。結果を10月に配布する予定である。	B	・ぜひ、指導に生かしてほしい。	A	・hyper-QUを実施した。結果を配布し、個々に活用した。	A	・QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進をお願いしたい。	・次年度は別の方法を取り入れる。
	○教育相談の強化	・スクールソーシャルワーカーや関係機関との連携強化	・不登校児童と関係機関との連携率100%	B	B	B	・ソーシャルスクールワーカー、関連機関と連携を強化している。スクールカウンセラーは2学期から着任した。	B	・スクールカウンセラーが不在の時期があった。	B	・ソーシャルスクールワーカーなど様々な機関と連携している。	B	・スクールソーシャルワーカーや関係機関との連携強化をさらに進めてほしい。	次年度は不在時期がないように相談体制を確立していく。

学校（園）の現状 地域社会に開かれた	○学校ホームページの充実等	・保護者・地域向けのお知らせや学校ホームページの充実	・学校の教育活動への理解について肯定的な回答80%以上を目指す。	A	A	A	・学校ホームページで学習及び生活の様子、学校行事について、毎日発信している。	A	・学校ホームページが新しくなり、毎日更新されていて、学校の様子がよく分かる。	A	・学校生活の様子や行事、給食等についてホームページを活用し、毎日発信することができた。	A	・学校ホームページを通して、子供たちの様子がよく分かった。	・さらなる学校ホームページの活用を行う。
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会や学校関係者向けアンケート、保護者アンケートの計画的な実施	・学校関係者評価において、取組・成果共に7割（B）以上を目指す。	B	A	B	・学校評議委員会を行った。保護者アンケートを作成、企画している。	B	・学校公開や学校評議委員会で学校の様子を知ることや意見交換ができた。	A	・学校評議員会や学校関係者向けアンケート、保護者アンケートの計画的な実施を行うことができた。	A	・学校公開や学校評議委員会で学校の様子など意見交換ができた。	・次年度は学校関係者評価の日程を変更するなど、充実を図る。
教育の特色ある展開	○道徳教育の充実	・管理職による授業観察では、年間の中で1回は道徳の授業を行い、授業力向上を図る。	・保護者アンケートで思いやりの心の育成について肯定的な回答80%以上を目指す。	B	A	A	・管理職による授業観察を行っている。授業力向上に向け、国語科の研究授業を行っている。	A	・道徳授業地区公開講座で食育について講座を受けた。とても関心のある内容で参考になった。	A	・道徳教育で人と人との関わりを大切にした指導の徹底を図り、思いやりの心と他者を尊重し共に生きる心を養った。	A	・道徳教育に力を入れ、思いやりの心を育ててほしい。	・次年度も道徳の授業を重点的に行っていく。
	○人権意識を高める教育活動の充実	・年間を通して「人権の花」運動の取組を推進し、全校児童に発信する。	・運動実施報告を作成する。委員会での常時活動、掲示物による発表を行う。	B	A	A	・花の種を2種類植え、栽培委員会で育てている。 ・「人権の花」運動の掲示物を作成している。	B	・「人権の花」運動で花を育てることにより、子供たちの気持ちも育まれ、綺麗に整備されている。	A	・「人権の花」運動では、栽培委員会が中心となって計画的に活動することができ、活動を模造紙にまとめた。	A	・人権教育に取り組み、育てていることはとても良い。	・2年間の人権の花で培ったことを栽培委員を中心に引き継ぎ活動していく。